

第2号様式（第3関係）

第6回豊山町中学校施設整備基本構想会議議事録

- 1 開催日時 令和3年12月27日（月） 午後3時00分～
- 2 開催場所 豊山町役場 2階 会議室1
- 3 出席者

名古屋市立大学芸術工学研究科 教授	鈴木 賢 一	（会長）
愛知工業大学工学部 教授	鈴木 森 晶	（副会長）
社会福祉法人豊山町社会福祉協議会 会長	池 山 和 徳	
豊山中学校 校長	篠 田 弘 男	
豊山町議会 議長	水 野 晃	
豊山中学校PTA 顧問	小 川 晃 永	
事務局		
教育長	北 川 昌 宏	
教育委員会事務局長	安 藤 憲 司	
教育委員会教育参事	小 川 貴	
教育委員会事務局学校教育課長	井 戸 茂 治	
教育委員会事務局学校教育課学校教育係長	菊 地 智 行	
教育委員会事務局学校教育課学校教育係主任	安 藤 幸 雄	
産業建設部参事	大 見 明 弘	
産業建設部建設課土木・農政係主事	上 田 卓	
阪急コンストラクション・マネジメント株式会社		
名古屋事務所 営業部部長兼名古屋事務所副所長	杉 田 昌 彦	
東京本店 CM部 チーフマネジャー	佐 藤 学	
名古屋事務所 CM部 チーフマネジャー	山 口 友 香 理	
- 4 欠席者

中部大学人間力創成総合教育センター 教授	武 者 一 弘	
愛知教育大学教育学部 教授	風 岡 治	
愛知学泉大学家政学部 教授	前 田 治	

5 傍聴者

なし

6 議題

- (1) 目指すべき中学校のあり方について－中間まとめ（案）－
- (2) 町民アンケートについて
- (3) 計画候補地について

7 会議資料

- (資料1－1) 目指すべき中学校のあり方 中間まとめ案
- (資料1－2) 令和元年度豊山中学校学校体育施設利用状況
- (資料2) 町民アンケートについて
- (資料3) 計画候補地について

8 議事内容

(1) 連絡事項等

事務局：11月24日の第5回構想会議では、中間まとめに向けて私共の考えを整理した資料について皆様から多くのご意見を頂戴した。本日は、いただいた意見を踏まえて修正した中間まとめ（案）について説明する。基本的な整理として、今後の中学校のあり方について「標準」とするものは基本項目、「更なる検討項目」を要するものは基本構想・基本計画段階や基本設計段階で今後確認や検討を行う予定である。また、町民アンケートについてもご教授をいただきたい。アンケート結果を踏まえて、中間まとめをより充実させていきたい。最後に今回の中学校建設候補地について提示する。

(2) 議題

【(1) 目指すべき中学校のあり方 中間まとめ案】

会長：本日は、中間まとめ（案）、アンケート、候補地について委員の方より意見をいただきたい。議題1について事務局より説明をお願いします。

事務局：前回は提示した資料について、委員よりいただいた意見を含め修正を行った。修正箇所は赤字となっている。

資料説明（1－1を参照）

また、前回の会議で豊山中学校の学校開放施設の利用状況について質問が出ていたため、本日利用状況について説明する。

資料説明（1－2を参照）

会長：中間まとめ案については、委員や関係者の意見を丁寧に拾っていただいている。何か質問などはあるか。

委員：第5回で出た意見を反映していただいております。今後の作業となると思うが、新しい中学校のコンセプトについて検討してほしい。この場で考えるというよりは、若い教員から意見をいただけてまとめてもらえるとよい。

委員：資料1-1の1頁、「1. 教育環境の質的向上」について、職員室入口に相談スペースを設置とあるが、職員室には、不特定多数の人が出入りするため、プライバシーに配慮した相談室を設置することは難しいのではないか。

会長：細かい事であるが、相談室と相談スペースと書き分けているが、何か意図はあるか。

事務局：相談スペースは、来校者などの応接的な使い方ができるスペースを考えている。一方、相談室は、生徒用のプライバシーに配慮したものを考えている。混同しやすいため、記載方法について検討させていただく。

会長：相談スペースについては、応接スペースと考えてよいか。

事務局：従来の職員室は、用事のある先生の所に行くには、職員室の中まで入って行かないといけない。個人情報の管理のことも考え、入口付近に受付を設け、簡単な打合せや相談が座って行える機能を職員室に持たせたいと考えている。

会長：先ほど委員から意見があったとおり、若い先生方の意見が大事であることに同感である。

委員：若い先生方の感性で、良いコンセプトができると良い。実際に中学校で働かれる方には、こんな学校にしたいという思いがあると思う。大変コアとなる部分でもあるので、委ねてみることも良いと思う。

会長：とても良い意見と思う。この会議での成果を経て、設計段階で先生や地域の方など関係者によるワークショップが行われることを期待する。ただ、先生方は日常業務を行っているため参加が難しいと感じている。実際に使われる先生方がプロジェクトに参加できることは理想的である。

委員：構想会議から次のステップに移る際に、若い先生方が参加して、こういう学校にしたいと決まってくると良い。特にこういう中学校にしたいというコンセプトは大事だと思うので、よいコンセプトができると良い。

会長：次のステップでぜひ行えるよう検討していただきたい。

事務局：校長も委員として参加している。若い先生方の意見とあるが、これまでに挙がっている意見は、校内の若い先生方の意見も入れていただいている。

委員：今までに発言したものは、私見だけでなく、校内の意見を吸い上げて発言したものである。夏休みに行った教職員からの意見聴取についても、校内の中核となっている教職員にも参加してもらっている。また、保護者や生徒などからの多数の意見も取り入れていただいていると思っている。

委員：これまでの経験上、企画提案していく上でコンセプトが大事であると考えている。骨太な中学校のイメージが分かるコンセプトがあると良いと思う。

事務局：例えば文科省が謳っている「新しい時代の学びを実現する学校」や「Schools for the Future」のような一言で表現したものか。

委員：環境や人との繋がり、福祉などが次の代のキーワードになると思う。そういう言葉を使って何かできるとよい。町の「小さくてキラリと輝く」というのは良い言葉だと思う。オリジナリティやアイデンティティのあるコンセプトがあると良い。

会長：町には1校しか中学校がないため、自分たちの学校という当事者意識を持って発言いただいている意見だと思う。

それでは、今回の方針でまとめて進めていただけると良いかと思う。

中学校の施設の利用状況についても調べていただいたが、ご意見はないか。柔剣道場で活動している和太鼓はこの地域の特色であるか。

委員：和太鼓の団体は以前3団体あったが、現在2団体となっている。1つは中学校で活動し、もう1つは社会教育センターで活動している。

【（2）町民アンケートについて】

会長：続いて、議題2町民アンケートについて説明をお願いします。

事務局：資料説明（資料2を参照）

会長：この件について意見はあるか。

委員：新しい豊山中学校への自由な意見を聞くこととなっているが、どういう意見が求められることを想定しているか。移転や現地建替についての意見をここに記載するということか。

事務局：アンケートのイメージとして、各設問の下に自由記入欄を設ける。また、アンケートの最後にも全体を通して自由な意見を記入する欄を設ける。敷地についての意見が出れば、そういった意見も吸い上げさせてもらう。

委員：目指すべき姿の冒頭に、アンケート結果を最終まとめに盛り込むとあるが、町民アンケート結果を踏まえて構想会議で判断をしなければならないのではないかと考える。アンケートの実施が1回のみであれば、もう少し内容を細かいところまで聞いた方が良いのではないか。

事務局：今回まで5項目について検討してきたため、この5項目について町民に聞きたいと考えている。ただし、整備手法や財政的な判断については町民に

尋ねることは馴染まないと考えるため、今回のアンケートでは外している。意見が多かった回答は、町民から重要視されていることなので反映させていきたい。自由記載欄の意見はそのまま盛り込むのではなく、今後会議に挙げて検討したい。町民の皆さんの視点も盛り込んで中間まとめを深掘りしていきたい。

委員：アンケート対象が中学生以上とあるが、5項目について中学生でも回答できる内容であるか。どういった回答方法か。

事務局：回答イメージとして、例えば、教室で重視する点は何ですかと質問した時に、「教室は今より広くしてほしい」や「机はこうしてほしい」など重要と考える項目に丸を付けてもらうことを考えている。丸の多いものを重要視して考えていきたい。そのため、現に利用している中学生にも意見を聞きたいと考えている。無作為抽出で行うが、地区単位や年代が偏ることなく公平公正に抽出して実施する予定である。実際のアンケート内容についてお見せしたいが、実施前に内容が公開されないようにしたいため、内容は会長と調整させていただきたい。

会長：アンケート結果は、会議で見せてもらうことはできるのか。

事務局：アンケート結果については提示する。

会長：その段階で、町民の意見をどのように反映させるのか協議していきたい。

委員：アンケート内容は実施前に見せていただくことはできないか。

事務局：調整させていただきたい。できるかぎり公正に行いたいと考えている。

委員：各5項目に対して全ての内容を聞くことは無理だと思う。全体として何問のアンケートを想定しているのか。

事務局：イメージとして、年齢や地区を聞いた後に、設問は10問以内、選択肢は5～6個を想定している。

会長：普通のアンケート調査だと回答率は2～3割程度である。項目があまりに長いと回答率が悪くなる傾向があるため、シンプルな方が良い。一方で、今回の町民アンケートを行うことで、町が動き出していると町民に知らせる良い機会になると思う。

【(3) 計画候補地について】

会長：続いて、議題3 計画候補地について説明をお願いします。

事務局：資料説明（資料3を参照）

これまで新しい中学校のあるべき姿として様々な意見があったことを踏まえ、今回の計画に相応しい敷地を検討していきたい。豊山町内で計画候補地となり得る3つの候補地についてまとめた。

候補地1は、現中学校の敷地。

候補地2は町有地を挙げる。学校用地として広い敷地が必要であり、豊山町の財産調書から敷地面積が5,000㎡以上の敷地について提示した。候補地3は、候補地1・2以外で広い敷地が確保しやすい市街化調整区域を示す。市街化調整区域の場合、他の用途地域と違い、厳しい高さ制限や日影規制がある。他の候補地より広い面積を必要とし、敷地面積を25,000～30,000㎡と想定した。町の北側の学校給食センターがある市街化調整区域一帯は、現在愛知県による「基幹的広域防災拠点」の計画地となっている。

今後は、法的基準、立地、周辺状況、学習環境などの要件を比較し、委員のご意見も踏まえ、新しい中学校に相応しい場所を決めていきたい。

委員：敷地面積を平米ではなく坪数で教えてほしい。

事務局：候補地1が4,840坪、候補地2①庁舎が2,840坪、②豊山小学校が4,260坪、③新栄小学校が3,390坪、④志水小学校が4,210坪、⑤豊山スカイプール+駐車場が2,330坪、⑥豊山グラウンドが4,330坪、⑦社会教育センターが1,577坪、⑧神明公園が12,750坪、候補地3の25,000㎡については7,560坪、30,000㎡については9,075坪である。

委員：分かりやすくなった。

委員：現豊山中学校における5,000坪で手狭感はあるのか。

委員：広いと思う。

委員：卒業された保護者や小学生を持った保護者から、中学校は移転するのかわという質問がある。今後50年を見据えた中学校とすることは分かっているが、それ以上に関心があるようなのは場所についてである。もし移転するのであれば、自転車通学や公共交通機関なども考えてほしい。

会長：今の通学手段はどうなっているか。

委員：徒歩である。

事務局：公共交通機関とはどういうことか。

委員：もしも離れた場所に移るのであれば、生徒の通学について、自転車通学が危ない場合などは公共交通機関も手段の一つとして考えてほしい。

委員：例えば候補地2⑤豊山スカイプール+駐車場及び⑥豊山グラウンド付近を敷地とした場合、あそこの交差点は車の事故が多いため、安全性の担保をどのように考えているか。

事務局：現在はまだ中学校のあり方について検討している段階で、安全対策については議論していない。現豊山中学校は、信号のない横断歩道もあり、交通量も多いところにある。今後、事故件数なども比較しながら検討していきたい。

会長：評価する項目の一つとして、交通上の安全性についても検討することになると思う。

委員：住民から安全性について聞かれている。⑤豊山スカイプール+駐車場付近は県営名古屋空港への車の進入ルートでもあり、三菱重工へ出勤する車、北名古屋市へ行く車など非常に交差する場所である。また、2車線あり、広い交差点であるため安全性に危惧している。

会長：候補地1・2は町有地であり土地を購入することはないが、候補地3は町有地か。

事務局：候補地3は町有地ではない。これまでの長寿命化計画の中で、財源や整備までの時間などを考えると、現在ある町有地または現中学校での建替えが適切であると考えている。しかし、他に候補地がないのか検討するために候補地3を挙げている。学校用地として適地であるか、用地買収にかかる経費や時間についても検討に入れた上で判断が必要であると考えている。

会長：候補地として可能性があるものを挙げたということによいか。

事務局：そのとおりである。

委員：公共施設とのコミュニケーションの取りやすさも重要な視点である。通学のしやすさ、安全性、財政などいろいろな要素について議論しなければならないと考えるが、この構想会議の場で議論するのか、どうか。

事務局：まずは構想会議において目指すべき中学校のあり方についてフラットに議論していただいた。その上で現中学校敷地の広さで本当に十分であるか、また学習環境、生涯学習、防災、福祉なども踏まえて総合的に検討しなければならない。最終まとめには私たちの考えが言えると良いと考えている。

委員：意見を集約していく中で、こちらの方がベターではないでしょうかと結論付けていくこととなるのだろうか。

事務局：こういった学校が私たちが考える豊山中学校のあるべき姿である、と最終報告書に向けてまとめることが本会議の使命であると考えている。

会長：始めは候補地を決定することが目標と想っていたが、まずはあるべき姿を議論しながらまとめていくことも理解できる。候補地を比較して評価すると絞られてくるように思う。

会長：しっかりまとめられているが、全てやろうと思うと先立つものが足りない。今後アンケート結果などを参考にしながら取捨選択することも出てくると思う。計画は立てられるが、途中で費用が足りなくなってしまうと避けたい。また、完成後の維持管理費用や今後の小学校改築にかかる費用も踏まえて考えていかなければならない。どれくらい費用が掛かるかを見据えながら議論する必要があると感じた。

会長：整備手法や費用についても検討いただけるものと思っている。実現性のない計画ではいけないため、大事な指摘である。

委員：中学校について議論しているが、次に控える小学校との連携についてはどのように考えるか。今後中学校と小学校を連携して一つとすることなどは考えるか。

事務局：平成31年に策定した長寿命化計画の中で、児童生徒数の推計も踏まえた上で1中学校3小学校として、学校毎に改築や大規模改修などを行って対応していきたいと考えている。

会長：全体を通して意見はあるか。候補地については、可能性がある場所を全て出していただいたため、今後どの場所が相応しいか絞り込みを行うということが良いか。

事務局：整備手法や財源、メリットデメリットなど比較しながら検討を行う。

会長：議題は以上とする。今回出た意見も中間報告に反映していただきたい。

9 その他

次回の構想会議日程

3月頃を予定とする。

上記のとおり第6回豊山町中学校施設整備基本構想会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和4年1月27日

会 長 鈴 木 賢 一

署名人 鈴 木 森 晶